松原市指定有形文化財　美術工芸品　歴史資料　歴第一号

布忍神社　布忍八景扁額　六面

寺田氏旧蔵

「宮裏白櫻　孤村夕照」

四九・一㌢×一九〇・〇㌢　厚二・二㌢　ケヤキ材一枚板

「野塘春日　平田秋月」

四六・九㌢×一九一・二㌢　厚二・八㌢　ケヤキ材一枚板

「南山残雪　西海晩望」

四八・〇㌢×一八四・一㌢　厚二・五㌢　ケヤキ材一枚板

「竹林黄雀　篭池白鴎」

四九・八㌢×一九七・五㌢　厚二・五㌢　ケヤキ材二枚継板

布忍神社奉納

「宮裏白櫻　孤村夕照」

五一・五㌢×二〇五・三㌢　厚二・九㌢　ケヤキ材二枚継板

「野塘春日　平田秋月」

五一・五㌢×二〇五・三㌢　厚二・四㌢　ケヤキ材一枚板

※寺田氏旧蔵と布忍神社奉納の両者に記された漢詩・狂歌・俳句は同じである。

（翻刻）「宮裏白櫻　孤村夕照」

布忍八景

宮裏白櫻　一志

萬木林中宮宇櫻
春来日々囀二黄鶯一
美華是可二神遺愛一
不二減一枝一益向レ栄

和　聴雲軒

数仭宮牆遶（繞）二白櫻一
新年句調詑二黄鶯一
閻浮誰敢忘二神澤一
風景還従二祇花一栄

長流

さく花も神のミたまの冬めきて
いかきの櫻雪をミすなり

契仲（沖）

植置てたむける神のミや櫻
ひとの心もミれはのとけし

正村

美し法師すかた白さくら

来山

櫻啖（咲カ）て此宮はやふ夜か明る

鳥居先の家く年毎の
くれの餅つかぬを吉例とす

云推

宮櫻餅花かあうこんなもの

秀政

さりなから烏ハ黒し宮櫻

自休軒

ミやの名は白けに

廻文

けらし花のやミ

孤村夕照

林下孤邨日已傾
雨収煙絶趍（趨）二前程一
行人執レ策馬蹄疾
永興疎鐘報二晩暗一

和

半竿斜照又西傾
一路紫（柴カ）門鎖二水程一
鴉背閃逢二煙樹暗一
龐眉撐玉茅簷暗

鶏はまたきとくらに人はてて
夕日に独りさとにのこれる

夕日さす窓によりぬる人やたれ
さひしさとハんミゆる一らむ

その女

夕陽や手もとに花の春きぬ

見龍

かけろふの入日や満て茜綛

茂哉

無事くの家へ寝に来る燕哉

月香

足弱や夕日を花におきミやけ

永いかけのひし

廻文

にし日の下界かな

（翻刻）「宮裏白櫻　孤村夕照（寺田家旧蔵裏面）」

岩二屋
日和見
二月廿八日□（改カ）／三拾貫二百□（匁カ）

（翻刻）「野塘春日　平田秋月」

野塘春日

埜（野）塘不レ遠近二吾盧一
日々孤筇行足レ娯
風入二垂楊一舞二狂
絮一雨過昏水散
跳レ珠

和

春日遅々転二玉壺一
野塘青艸供二歓娯一
新晴花藉蜀江錦
太化水回合二浦珠一

沢水も人目つつみと霞む野に
こなきつむこを忍ひて見し

蛙鳴野沢のつゝみ行くらし
莚にしかん昏の若艸　安林

埜堤や哥雀のとゝく虹の反　貞則

新堤あ坂ハはけて霞けり　雲散

蛇の円座をほとく焼野哉　安水

野塘や三月麦の日和風　勝久

野堤や松に顔うつ紙鳶

見つゝけよ春日に

廻文

干るは除堤

平田秋月

平田秋熟稲粱肥天朗
気清陰雨稀野老不レ
知晴景好黄昏獨背一
月明一帰

和

老雅躬耕二土地一肥喜
禾雨足旱災稀鳥
啼華樹無人處牛
背牧童載レ月帰

稲莚かり田の原の跡の月
ありしはかりもしく出かな

武蔵野もかくこそハミめ末遠き
田面の露にやとる月哉　悠川

名月に畳舗けり米のはな　正之

名の月や天智天皇御座所　一章

掬するや波底の月の田一杯　安知

布忍野の綿の盛やけふの月　未白

稲茎や月の分し水の淡

月をつね案山子

廻文

や鹿か寝つ起つ

（翻刻）「野塘春日 平田秋月（寺田家旧蔵裏面）」

木／□□尺六／七拾六□□／長七尺

（翻刻）「南山残雪　西海晩望」

南山残雪

春馴南山光景
美雲淡風暖帯二
晴暉一渓邊斑駁
雪残處白鷺為レ
群遂未レ飛

和

東風凛々雪扉々
銀闕瓊楼催不レ暉
山主却嫌二春色晩一
敢穿二庭樹一作二花飛一

北風の向ふ山とや嶺の雪
きゆへきかたの消かてにする

朝もよひき比の遠山霞めとも
やとのものなる峯の白雪

一禮

あの高根猟の雪の二月や

長政

雪消て藁か出つ武人形

定次

淡雪や片袖あけて烏帽子形

梅春

春の雪片肌脱た南山

榮張

雪はけて御礼の牛すゝミ黒

きゆるこの間や

廻文

南山のこる雪

西海晩望

晩望二滄浪一独寄レ欄西
南萬里水漫々帰
帆一片煙波上只
作洞庭遠浦看

和

簾捲斜陽人寄レ欄
漸荏淡路白漫々
哥端幾點鴈聲
遠只作星河咫尺
看

夕しほに難波を出て松浦ふね
そなたに行や帰るなるらん

和田の源鏡と見ゆる夕なきに
いとわぬふりや淡路嶋山

文十

鯵網を引しぼりたる入日哉

一匡

たかとより下に帆船の幾千艘

休宗

白雨や中に日のふる西の海

言晶

夏はかり船頭様や百の海

篤信

落日や波にまはゆき床□□

ミなつきをくたくや

廻文

くたく沖つなみ

（翻刻）「竹林黄雀　篭池白鴎」

竹林黄雀

前埜竹林亭積翠
許多黄雀日相群
遊児動作弾丸兎
為レ報二暮長一近二此君一

和

数畝琅玕千貫
百千黄雀足レ成レ群
王猷死後無二人賞一
独有談レ風伴二此君一

今更に何かおひたつ省子も
よのうきふしのしげき林に

朝夕に来鳴雀も声しけし
竹の林にます陰やなき

安求

花にくれて竹に実のなる雀哉

忠重

子雀や朝日呼出す竹林の奥

好氏

鶯もかるや雀の小便たこ

高允

雀追ふ竹に声あり苗の番

和言

梅に寝す竹に生れぬ雀也

若のるハ淡竹や

廻文

朽葉春のしも

篭池白鴎

□（青カ）蘇平鋪置黄雀
翠□□動起二清風一
白鴎口夜許多衆
自是清浩一鳥籠

和

碧鏡蘸天分霽月
霜衣舞露散風二香風一
淡萍清□（渉カ）雨三尺
覆育生魚一畢籠

池の名をもらさしと結ふより
なくかもめやよそに離れぬ

かの見ゆる他の汀を踏したき
あさる鴎のとゝまるもおし

伴自

初雪や木とも石とも不分明

安可

篭池や脱捨足袋の一番

為国

ちよほ〳〵と鴎寒うて水の雪

辨弥

鴨鴎羽おとくらへよ松の風

安昌

水面かゝん箕の手に下る鴎哉

目も鴨とにぬにや

廻文

似ぬともかもめ

宝永弐酉年十一月十三日

（翻刻）「竹林黄雀・篭池白鴎（裏面）」

願主

高木　東坊　云推
同　九郎兵衛　高之
更池　多門院　秀政
同　喜右衛門　定次
同　徳左衛門　貞則
東代　忠左衛門　忠重
清水　見庵　茂哉
同　只右衛門　未白
同　定右衛門　□□
同　新兵衛　霜救
同　傳右衛門　休尓
同　□左衛門　□龍
堀村　長右衛門　長政
向井　喜庵　見龍
同　好右衛門　安林
同　武右衛門　安求
同　新右衛門　好氏
同　弥十郎　安可
同　半十郎　安水
同　宥弥　安□
同　三郎兵衛　□春
同　六兵衛　安知
松原　四郎右衛門　月香
南花田　兵左衛門　一邑
同　長左衛門　龍言
同　千代　一番
小坂　林左衛門　勝久
北村　重兵衛　正之

敬白

願主頭取　［　］
［　］
畫師　池　真［　］